

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2025年 第50週（12月8日～12月14日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 3週連続で減少」

第50週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,625例であり、前週比11.5%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、流行性角結膜炎、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.98、2.17、0.92、0.67、0.46である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比14%増の736例で、南河内6.20、大阪市西部5.70、中河内5.11、北河内4.26、豊能4.18であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は16%増の401例で、南河内3.73、中河内3.37、豊能2.73である。

RSウイルス感染症は2%増の171例で、南河内1.73、北河内1.61、大阪市北部1.54であった。

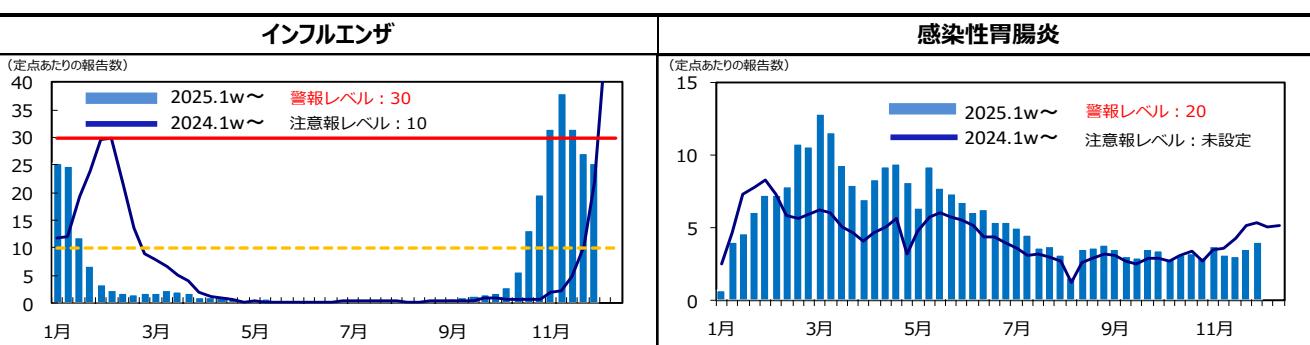
流行性角結膜炎は21%増の34例で、豊能2.20、泉州1.67、中河内0.60である。

咽頭結膜熱は42%増の85例で、南河内0.93、北河内0.87、中河内0.79であった。

インフルエンザは7%減の7,318例で、定点あたり報告数は25.23と3週連続で減少がみられている。北河内37.08、中河内35.76、南河内33.91、大阪市北部25.80、大阪市西部25.53であった。大阪府では、AH3が主に検出されている。

新型コロナウイルス感染症は18%減の159例で、定点あたり報告数は0.55である。大阪市東部1.10、南河内1.00、大阪市北部0.65、堺市0.60、中河内・泉州0.52であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は5%減の15,130例で、定点あたり報告数は52.17である。南河内75.78、北河内68.55、中河内63.28、大阪市北部56.40、泉州53.18であった。



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2025年 第50週12月8日～12月14日）

第50週の順位	第49週の順位	感染症	2025年第50週の定点あたり報告数	前週比増減	2024年第50週の定点あたり報告数	2025年第50週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.98	14%増	5.19	1歳_14%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.17	16%増	1.88	10-14歳_20%
3	3	RSウイルス感染症	0.92	2%増	0.89	1歳_35%
4	4	流行性角結膜炎	0.67	21%増	0.31	20歳以上_68%
5	6	咽頭結膜熱	0.46	42%増	0.41	1歳_21%
参考		インフルエンザ (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	25.23	7%減	21.64	10-14歳_21%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	0.55	18%減	1.78	5-9歳, 80歳以上_15%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	52.17	5%減	-	1-4歳_31%

2025年第15週から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)サーベイランスが開始となりました。

2025/26年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）をご覧ください。

第50週のコメント

～バンコマイシン耐性腸球菌感染症～ 2024年の大阪府の報告数は、15例であった。

